

世界遺産富士山 「信仰の対象と 芸術の源泉」

日本一の高さを誇る富士山。2013年6月22日、「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」の名称のもと世界文化遺産に登録されました。

富士山は、「信仰の対象」であるとともに、「芸術の源泉」として、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきた歴史があります。

かつて噴火を繰り返す山として畏れられていた富士山は、富士講と呼ばれる信仰集団や浮世絵の登場などにより、日本人にとって身近な存在となりました。人と自然が信仰と芸術を通して共生する姿は、富士山が持つ大きな特徴といえるでしょう。そうした歴史・文化にゆかりのある25の構成資産から成る富士山を、ユネスコ世界遺産委員会は未来に受け継ぐべき世界の宝として認めたのです。

芸術の源泉



山梨県立博物館蔵
富嶽三十六景「凱風快晴」
(葛飾北斎)
各地から望む富士山の形姿を描いた浮世絵作品で、海外の芸術家にも影響を与えました。「富嶽」とは富士山のことを指します。



三ツ峠山から望む富士



山梨県東地域
山梨市 笛吹市 甲州市
葡萄畑が織りなす風景

甲州市勝沼町内フルーツライン付近より撮影

日本遺産に認定されている 2つのストーリー

2018年5月24日、山梨県の文化・伝統を語る2つのストーリー「葡萄畑が織りなす風景」と「星降る中部高地の縄文世界」が日本遺産に認定されました。

※日本遺産とは、日本の歴史に眠るストーリーにスポットを照て、国内外に発信していくプロジェクトです。



信仰の対象



⑬北口本宮富士浅間神社



⑩御師住宅(旧外川家住宅)
※⑨小佐野家住宅は非公開



⑪船津胎内樹型
※⑫吉田胎内樹型の内部は一般公開されていません

甲府盆地の東部は平坦地から傾斜地まで葡萄畑が広がり、初夏には深碧の絨緞、秋には紅葉の濃淡が日に映え、季節ごとに様々な風景を魅せてくれます。

奈良時代から始まったと伝えられる葡萄栽培は、先人たちの知恵と工夫により、かつて水田や桑畑だった土地を一面の葡萄畑に変え、またその葡萄畑に育まれたワインは日常のお酒として地域に根付きました。今も歴史を語る技術や建物は受け継がれ、葡萄畑の風景の中に溶け込んでいます。

北杜市 津金御所前遺跡 出産文土器
甲州市 殿林遺跡 深鉢型土器
甲州市 一の沢遺跡 土偶「いっちゃん」
南アルプス市 鑄物師屋遺跡 人体文土器
南アルプス市 石之坪遺跡 動物文土器
甲府市 上野原遺跡 水煙文土器

日本の真ん中、八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉾山があります。鉾山の森に足を踏み入ると、そこには縄文人が掘り出したキラキラ耀(かがや)く黒曜石のカケラが一面に散らばり、星降る里として言い伝えられてきました。日本最古のブランド「黒曜石」は、最高級の矢じりの材料として日本の各地にもたらされました。

麓のムラで作られたヒトや森に生きる動物を描いた土器やヴィーナス土偶を見ると、縄文人の高い芸術性に驚かされ、黒曜石や山の幸に恵まれて繁栄した縄文人を身近に感じることができます。

星降る中部高地の縄文世界 —数千年を遡る黒曜石鉾山と縄文人に出会う旅—

- 山梨県 甲府市 葦崎市 南アルプス市
- 北杜市 笛吹市 甲州市
- 長野県 茅野市 富士見町 原村 諏訪市
- 岡谷市 下諏訪町 長和町 川上村